

三原市久井歴史民俗資料館 vol.21

モーモー通信



モ〜っと明るく！
あんどん
行灯いろいろ

☆行灯ってななに



行灯は、和紙を通して光を広げるあかりの道具です。今でも見かけることがありますが、使われるようになったのは室町時代ごろからです。その頃の文献「鎌倉年中行事」(1452~1455)に、屋外の行列に用いられたとあります。もとは「行灯」の字の通り手に持って歩くときに使われ、江戸時代に提灯が普及すると、室内でのすえ置き型が主流になりました。

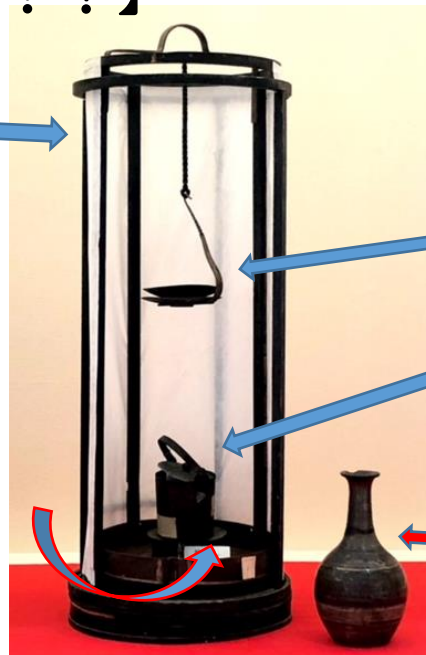
【行灯コレナンダ！？】

火袋

火皿をおおう和紙。
風よけと、光を弱くする役目がある。

回転する

開閉式で半円が回転する。手元を明るくする時は、火袋を開ける。



行灯にはさまざまな種類があるかも〜



火皿

油を入れた皿。油にひたした灯芯（イグサ等）に火をつけて使う。

油さし

火皿に油をそそぐための道具。

油とっくり

油を保存する道具。

えんしゅう まる
遠州行灯(丸行灯)

【有明行灯】

明^{かり}け方^{かた}までともせる行灯です。
明^{かり}け方の月^{つき}を有^{あり}明^{あけ}月^{つき}とよぶこと
から、この名^ながつきました。起^おきてい
る時^{とき}は箱^{はこ}の上に置き、寝^ねる時^{とき}は箱^{はこ}
にしまい光^{ひかり}を弱^{よわ}くしました。



寝る時



☆モーモーポイント☆

こんな感じでのせます。

多^た機^き能^{のう}ですよ。起^おきている時^{とき}→



【角行灯】

江戸時代によく使われた行
灯で、独特^{ふせい}の風情^{ふうせい}があります。
行灯の光は、今^{いま}の豆電球^{まめでんきゅう}ほど
の明るさです。

【つり行灯】

天^{てん}井^{じょう}からつり下^さげるタイ
プの行灯です。木^き枠^{わく}が多^た角^{かく}形^{けい}
で職^{しょく}人^{にん}の意匠^{いしょう}が感じられます。



明^{めい}治^じ時代^{じだい}になると、石^{せき}油^ゆラン^ぷが広^{ひろ}まり
行灯はあまり使われなくな^なったよ。

次^{つぎ}号^{ごう}は「石^{せき}油^ゆラン^ぷいろ^{いろ}」♪

★「モーモー通信」はHPでも★

調^{てい}べよう！みはらコレナ^なダ？（子^こども向^{むか}け）



<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/50/104083.html>



資料館は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月9日(日)～2月20日(日)まで臨時休館します。*感染状況により、延期する場合があります。



つづきは資料館で...

〒722-1303

三原市久井町下津 1397

三原市久井歴史民俗資料館

TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日休館)、年末年始

アクセス 中国バス久井中停留所下車

いあんない図

